**第２２回観察会　2005年１月27日(木) 12:15～12:55　晴れ**

**テーマ『生きものたちの冬越し』**

**☆ガイドレポート**

今回は、昨年の観察会（第１１回）に引き続き「生き物たちの冬越し」というテーマで、主に冬眠している昆虫の観察を行いました。

最初に、研究棟の脇で、落ち葉の下にいるツチハンミョウの成虫を観察しました。写真翅が短く腹部が露出していますが、これでも甲虫の仲間です。「ハンミョウ」という名前が付いていますが、植物園でもよく見られるあの綺麗なハンミョウとは異なるグループに属し、幼虫がハナバチ類に寄生するという特異な生態を持っています。孵化した幼虫は花の上でハチがやって来るのをじっと待ち、脚にしがみついて巣まで運んでもらいます。無事たどり着けた幼虫は、親バチが作った部屋に入りこみ、用意しておいた花粉を食べて成長するのです。ただし、このようにうまくいく場合はまれで、大半はハナバチ以外の昆虫にくっついたり、運良く巣まで到達しても見つかって捨てられたりすることが多いようです。成虫になれる確率はごくわずかなため、成虫は何千個もの卵を産みます。ツチハンミョウが生きていくためにはハナバチの存在が不可欠なことから、この虫がいる所にはハナバチもたくさん生息していると推測できます。ツチハンミョウは、植物園の自然の豊かさを示す指標生物とも言えそうです。（写真２）

次に、戸板の隙間にいたクビキリギスを観察しました。この虫は成虫越冬する唯一のキリギリスで、春になるとジーという音を出して鳴き始めます。大顎の力が強く、いったん噛みつくと首がもげても離さないところから、この名がついたと言われています。今回見た個体は緑色でしたが、茶色のものも見られ、まれにピンク色のものが見つかることもあります。（写真３）

それから、幹に産み付けられたコカマキリの卵と、朽ち木の中のツマグロオオヨコバイを見て頂きました。後者は、夏から秋にかけて芭蕉の葉裏で多くの個体が群れているのを観察できます。そのすぐそばには、モズのはやにえ（獲物は小型のニホンカナヘビ）がありました。（写真４）

その後、朽ち木が積み上げてある所で、昨年と同様に、チビクワガタとコクワガタ♀を観察しました。このチビクワガタは、他のクワガタのように大顎が発達しておらず、オスもメスもほとんど同じ体型をしています。樹液を吸うこともほとんどないようで、一生の大半を朽ち木の中で過ごします。幼虫は親が噛み砕いた木屑を食べて成長し、このような家族単位での生活様式は「亜社会性」と呼ばれています。（写真５）

最後に、立ち枯れの木の樹皮下にいたユミアシオオゴミムシダマシ（写真６）、ルリゴミムシダマシ、アシダカグモ（写真７）を観察し、時間のある方には、配電盤ケースの中で身を寄せ合って冬越しをしているニホンヤモリを見て頂きました。昨年もこのケースの中にはたくさんのヤモリがいたのですが、雨が当たらず、温度変化が少なく、なおかつ外敵にも見つかりにくい場所なので、ヤモリにとっての「定宿」になっているのかもしれませんね。（写真８）

今回は事前の下見で見つけた生き物が少なく、時間が余ってしまうのではと心配していたのですが、何とかいろいろな昆虫を紹介することができて、ほっとしました。特に、ツチハンミョウは観察会のわずか1時間前に偶然見つけたもので、まさかこんな身近なところにいるとは思っていなかったので、大変驚きました。植物園には今回観察した虫以外にももっと多くの生き物が冬越しをしていると思われます。春になってこれらの生き物がどんな活動を始めるのか、とても楽しみです。

ガイド：吉本治一郎さん・大橋和典さん（京都大学農学研究科）　　　　　京都大学農学研究科昆虫研有志

**☆写真の説明**

写真１．今年もポストカードを販売します。

写真２．ツチハンミョウの成虫。生きています。越冬中です。

写真３．成虫で越冬するクビキリギス。

写真４．今年もモズのはやにえが見つかりました。都会では減少傾向です。

写真５．朽木の中で越冬するコクワガタのメス。起こしてしまいました。

写真６．朽木にいたユミアシオオゴミムシダマシの成虫。

写真７．家のゴキブリも食べるアシダカグモ。起こしてしまいました。

写真８．今年も配電盤でヤモリが越冬していました。

写真９．成虫で越冬するモンキツノカメムシ。

写真10．エノキの枯れ木から生えていたヒラタケ。

**☆参加者の感想**

参加者の感想文です。実名・匿名の指定がないかたはすべて匿名にいたしました。ご了承ください。

* ちょっと葉っぱをひっくりかえしたり、朽ち木を割ったらいろんな生き物がいたのでおどろきました。だいぶ人数が多かったので、説明を全員がきけるような工夫も必要かもと思いました。　　　　　（京大学部生　坂本三和さん）
* 少しマンネリ化して来たとも思う。　　　　　　　　　　　　　　（学外のかた）
* ヤモリが人工的な配電盤（？）の中で冬眠しているのや、カマキリが木の札の裏に卵を産んでいることに動物の知恵を感じました。　（近所のかた）
* 昆虫の冬ごしの姿や方法は、なかなか興味深かった。ガイドの方々、ていねいで詳しい解説ありがとうございました。　　　　　　　　（農学部教員　中西麻美さん）
* 沢山の虫の冬ごもりを知って楽しいひとときでした。今後も続けていただけたら嬉しいです。　　　　　　　　　　　　　　　　　　（近所のかた）
* たいへんよい勉強になりました。なにげなく見ていた虫の冬ごしを、たのしく観察させていただきました。ありがとうございました。　（近所のかた）
* 今回で3回目ですが、以前からご案内を頂いていましたのに参加せずに惜しいことをしたと思っています。　　　　　　　　　　　　（近所のかた）
* 身近に自然にふれられて、遠くにすむ子供たちとの話題がふえました。ありがとう。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（近藤たみ子さん）
* 生きた成虫のまま冬越しするのを教えていただいて貴重でした。チャンチンモドキの木が多くあり、何の研究に使ったのか利用したのか知りたくなった。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（国松喜雄さん）
* ＜＜植物園を大切に！＞＞日頃想いを寄せることを忘れていた虫さんやヤモリさん、おなかがすいて眠る姿にとても感動しました。ありがとうございました。現代の子供達にも見学会してあげて下さい。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（近所のかた）
* 初めて参加してみて中にある木々も多く、珍しいものもあって、もっと簡単にいつでもみられたらいいのにと思いました。次回も参加してみたいです。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（橋川篤子さん）
* 素人では決して見ることの出来ない生き物の冬越しを観察出来て感動しました。初めて見る昆虫もあり興味深かったです。　　　　（近所のかた）
* 寒い中、かわいらしい虫達を見つけていると手足のこごえも忘れ、もう13時だ。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（地球研　宮島敏明さん）
* 大変楽しかったです。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（岡村伸さん）
* 今回初めて参加させていただきました。こんな身近にすばらしい所があったんですね。身近なムシたちも、冬は人知れず過ごしているんですね。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（理学部物理　東條賢さん）
* 昆虫類の観察の楽しさを実感しました。　　　　　　　　　　　　　（近所のかた）
* 在職中からよく散歩に来ていたお気に入りの憩いの場所なので、是非保存してほしいです。キャンパスの緑が少なくなりつつある昨今、自然の姿を学べる貴重な緑地でもあります。　　　　　　　　　　（名誉教授のかた）